

# 耐病性茶品種「さえあかり」、 「せいめい」による化学農薬削減

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：茶

## 技術の概要

茶の栽培において、化学農薬使用量削減や有機栽培を行う場合、重要病害である炭疽病や輪斑病への対策が課題となっている。特に、新芽から侵入する炭疽病は、湿度が高い中山間地や梅雨、秋雨の時期にあたる二番茶や秋冬番茶に大きなダメージを与え、翌年の一番茶の品質や収量にも影響する。

そこで、これらの病害に複合抵抗性を有する品種「さえあかり」や「せいめい」を活用することで、化学合成殺菌剤を使用しない、あるいは大幅に削減することが可能となる。



有機栽培下で旺盛な生育の「せいめい」  
撮影：2020年10月22日（2年生茶園）

坂元園（鹿児島県）  
輸出用有機栽培茶園

## 効果

### ◎化学合成殺菌剤の無使用栽培が可能

全国に普及した一般的な品種「やぶきた」慣行栽培では、年間防除回数は約6回であるが、「さえあかり」や「せいめい」では化学合成農薬を無使用で栽培が可能となる。

### ◎高品質品種により品質向上

「さえあかり」、「せいめい」ともに「やぶきた」よりもアミノ酸が多く品質に優れ、特に被覆栽培適性が高いため、高級煎茶あるいは碾茶として活用できる。国によって異なる残留農薬基準に対応しやすく、輸出促進に貢献できる。

・耐病性品種の導入で、化学合成殺菌剤防除の省略可能



「やぶきた」



「さえあかり」

無農薬栽培における炭疽病の発生状況

## 導入の留意点

### ・赤焼病、もち病の発生に注意

有機資材として使える銅水和剤などを利用して防除が可能である。

## その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

### ●普及の状況

・「さえあかり」は全国で86ha、「せいめい」は鹿児島県を中心に約78ha普及している（2022）

### ●適応地域

・主要品種である「やぶきた」が栽培できる地域が適応地域である（関東以南）

## 関連情報

①海外需要が拡大する抹茶・粉末茶に適した新品種  
「せいめい」栽培・加工技術標準作業手順書（令和2年）

②茶品種ハンドブック 第6版version2（令和4年）

